

日本人学校の教員として  
子どもたちに伝えたいこと



やまもと し うん  
**山本 紫雲 さん**

教育学部  
学校教育教員養成課程  
社会科教育専修 (2020年3月卒)  
泰日協会学校 バンコク日本人学校 教諭  
1998年生まれ、埼玉県立川越高等学校卒  
趣味はランニング。  
好きな言葉は「マイペンライ」。

## 教科の専門性を深められる静大へ

生まれ育ちは埼玉県ですが、静岡市は祖母が住んでいたため、昔から親しみがありました。大学進学の際に、愛着のある静岡で暮らしたいという気持ちや、社会科教育への専門性を深められる教育学部のある大学を目指したいと思い、静岡大学を選びました。在学中に小中高の教員免許を取得し、教育に関する視野を広げることができました。



研究室で大道芸ワールドカップのボランティアに参加

と繋がりの強かったカンチャナブリという町があり、小学校の修学旅行先として訪問しました。海外で暮らす子どもたちに、日本人として戦争を考える機会があればと思ったからです。研究室で友人と議論したことを子どもたちにも考えてもらったことは、とてもいい経験でした。

## バンコク日本人学校で教えるやりがい

日本人学校は、さまざまな経歴を持つ先生と関わることができるので、常に新しい情報に触れ、知識がアップデートされていくのを感じます。卒業式の日に担任していた6年生の子から「バンコクに来てよかった」と声をかけてもらいました。自分が関わった地域に愛着をもち、大切にしてほしいという思いで子どもたちと接していたため、その言葉はとても嬉しかったです。



バンコクで暮らす日本人の子どもたちとの授業風景

## 大学時代の学校支援ボランティアがきっかけに

大学の講義の一環で参加した学校支援ボランティアで、授業の補助や事務作業に留まらず、授業参観や、休み時間に子どもたちと遊ぶ中で、小学校教員を志す気持ちが強くなりました。さらに教育実習を経て、在外教育施設で働いた経験のある先生方と出会い、海外での教育活動に興味を持ちました。日本人学校の仕事を選んだのもその先生方の助言があったからです。

## 戦争や平和について考える



戦時中に日本と繋がりがあったカンチャナブリでハーフマラソンに参加

研究室では、小学校で静岡市の空襲の授業をするなど、戦争や平和について考える機会が多く、意見交換を通じて多様な価値観に触れました。タイには、戦時中に日本

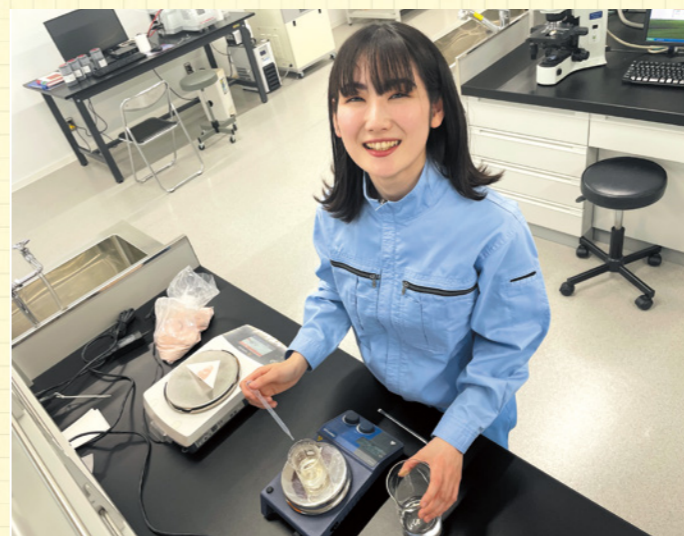
## 人との出会いや繋がりを大切にしてほしい

静岡を遠く離れて今、思うことは、自分にゆかりのある地域に愛着をもつことは、これからの生き方を考えるきっかけとなるということです。入学当初は、自分が海外で教員をすることなど、全く想像していませんでしたが、人との出会いが生き方を大きく変えました。学生の皆さん、人との出会いや繋がりを大切に、将来の目標の達成に励んでください！応援しています。



山本さんが学んだ教育学部について、くわしくはこちらから →

「なりたい自分になる」を  
化粧品で応援したい



ちゅう まん  
**中馬 かれん さん**

農学部  
総合科学技術研究科農学専攻  
(2021年3月卒)  
アサマコーポレーション株式会社 勤務  
(化粧品研究開発職)  
1995年生まれ、鹿児島県立鶴丸高等学校卒  
趣味は旅行・美味しいものを食べる・化粧品。  
好きな言葉は「ピンチは最大のチャンス」。

## 化粧品の研究開発職を目指して農学部へ

美容部員をしていた母の影響で、高校生の頃から化粧品の研究開発職に就きたいと思っていました。静岡大学農学部は、自然豊かな地域性を活かした植物化学に関する研究が豊富で、私が学びたいと思っていた有機化学や生物、生化学の知識を余すことなく学ぶことができました。現在、関東で仕事をしていて、静岡の自然環境や学びたい知識をすべて叶えられた経験の貴重さを実感しています。

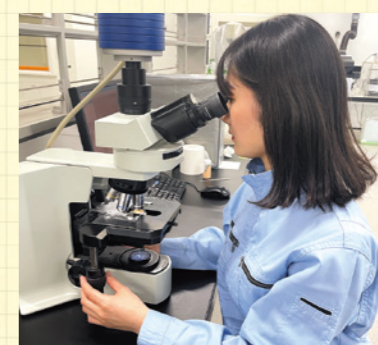
## 研究テーマはバラの香り、 農学祭の企画にも参画 化学や生物の知識の理解も深まる

在学中は有機化学や生物工学、生化学の授業を専攻し、植物化学研究室でバラの香りをテーマに研究しました。基本的な化学や生物の知識は、現在も化粧品の処方設計に必要な原料選定や皮膚科学への理解につながっており、論理立てて研究を進めていく力も研究開発職に活かされています。また、農学祭実行委員会に所属し、模擬店の出店や新入生のオリエンテーションの準備をしました。その経験で培った計画力やコミュニケーション力は、現在も社内外でのやりとりに活かされています。



農学祭で模擬店を出店し、大盛況でした！

## 化粧品開発で自信と夢を与えたい



乳化系のファンデーションを開発しております。乳粒子を観察中

化粧品は使っている人に自信と夢を与えます。自分が作製した化粧品で少しでも誰かの「なりたい自分」になる一端を担いたいと思い、この職を選びました。顧客要望に沿った化粧品の処方を開発できた時や、自分が携わった化粧品が市場で発売された時にやりがいを感じます。今後は日中もスキンケアをしていると思えるようなベースメイク製品の開発に挑戦し、スキンケアとベースメイクをより密接につなげていきたいと考えています。

## 学生の皆さん、視野を広げる経験を大切に！

在学中は、自分がどんな職に就きたいか、何を学びたいのかを焦って決める必要はありません。静大農学部、大学院農学専攻では多岐にわたる専門分野を学ぶことができます。化粧品以外に、食品や農業などの研究職や企画・マーケティング職に挑戦することもできます。大切なのは、将来の選択肢を広げるよう、常に意識して過ごすこと。授業で学ぶだけでなく、旅行で知らなかった景色をみたり、資格に挑戦してみたり、さまざまな経験を通して視野を広げてください。



おいしいものを食べることが好きです！

中馬さんが学んだ農学部、総合科学技術研究科農学専攻について、くわしくはこちらから (左) 農学部 (右) 総合科学技術研究科農学専攻 →

